

「アドベンチャーツーリズムに関するグローバルレポート」概要

✓ 目的・内容

- 現在や将来におけるアドベンチャーツーリズムに関する詳細な洞察や世界のトレンド、構造的な知識を提供
- アドベンチャーツーリズムにおける官民連携による取組の重要性のほか、アドベンチャーツーリズムの適切な運営と、地域コミュニティの発展に貢献する持続可能かつ倫理的な観光との関連性について説明
- 2014年初版発行



✓ 定義

- ATTA*1はアドベンチャーツーリズムを、「身体的活動」「自然」「異文化体験」という3つの要素のうち、少なくとも2つを含む旅行と定義

*1…ATTA(Adventure Travel Trade Association)…世界各地にオフィスと会員を有する国際的な組織。アドベンチャートラベルに特化した世界的な主要団体。

アドベンチャーツーリズムとは？

✓ 特徴

ダメージからの回復につながる	アドベンチャーツーリスト*2は自然災害や政治的な問題で観光が大きな損害を受けたことのある旅行先への関心が高い
付加価値を高める	旅行会社の報告によると、一人当たりの平均旅行代金は3,000米ドルで、平均旅行期間は8日間と収益性が高い
地域経済を支える	アドベンチャーを目的とする旅行パッケージ代金総額の65.6%が目的地に残ると推定されている*3
持続可能な実践を促進する	アドベンチャーツーリズムの従事者や関係者に、持続可能な環境活動(自然環境や文化的体験の保全等)の着実な実行を促す

出所)*3 ATTA「Industry Snapshot 2014」

✓ 種類(例)

※大きく分けて「ハードアドベンチャー」と「ソフトアドベンチャー」の2つのカテゴリがある。(両者とも非常に収益性が高い)

登攀:クライミング(山・岩・氷)	ハード
トレッキング	
バードウォッチング	ソフト
キャンプ	
地元の祭りや見本市	その他
クルーズ	

✓ 他の観光との比較

【アドベンチャーツーリズムのメリット】

大規模で新たなインフラは不要。地域雇用を迅速に創出(地域の人々の伝統的な知識をガイド・通訳等に活用可能)

アドベンチャーツーリズム ⇔ マスツーリズム

… 「マスツーリズム」でないものと定義可能

アドベンチャーツーリズム ≡ 持続可能な観光

… 負の影響の最小化、地域の利益の増大など、類似した特徴を有する

*2【アドベンチャーツーリスト】

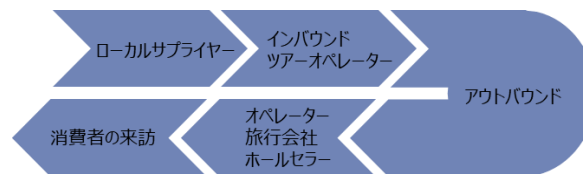
海外旅行を選好。1人で旅行する人は少なく、旅行先を選ぶ際に「自然の美しさ」を最も重要視する。流行に敏感で自ら情報収集を行い判断する傾向

✓ アドベンチャーツーリズム市場

2013年:旅行者全体の42%がアドベンチャーツーリズムを目的に旅行。2,630億米ドルの市場価値を占めた。*4

出所)*4 ATTA、ジョージ・ワシントン大学、ゾラ・コンサルティング社

アドベンチャーツーリズムのサプライチェーンの主な構成図(下図)



※近年はオンラインによる「直販化」などが進み例外もあり

※スマートフォンなど普及が進み「接続性」が向上、遠方訪問が可能に

アドベンチャーツーリズムの運用について

✓効果(例)

- 生物多様性の保全から得られる経済効果や、伝統・習慣の重要性について、一般の人々の理解を深める

- 経済と環境の問題を調和させ、持続可能な開発に実質的な利益を与える

- 旅行者の消費をデスティネーションの周辺地域まで押し広げる

✓環境整備

… アドベンチャーツーリズムはアクセス困難な場所で行われ、脆弱な人々に影響を与えることが多いため、**社会的営業免許**が求められる。



○社会的営業免許 (Social license)

… 当レポートでは、「観光開発の前に、影響を受ける可能性のある利害関係者やコミュニティのネットワークから意見を聞き、以下3つの要素に配慮すること」を指す。

正当性

開発プロジェクトが文化的・社会的ルールを遵守していることの証明 (フォーラムの設置等)

信憑性

プロジェクトに関する情報への正確で一貫したアクセスの提供

信頼

双方がプロジェクトから利益を得て、相手が可能な限り最善の利益を維持

○観光の優先順位付けを推奨

(以下手法)

- ● 国家レベルの観光振興と開発を監督する専門機関の設置
- 官民双方のリーダーで構成される理事会の設置 など

✓政策

… アドベンチャーツーリズムを発展させるために必要な国、自治体の政策分野

1.グッドガバナンス

観光政策

マーケティング
組織

ビザと入国許可
に関する政策

4.旅行者を惹きつける資源の管理

自然資源

文化資源

アドベンチャー資源

7.正確で革新的なマーケティング

8.育成

2.安心・安全に関する政策

5.情報通信技術 (ICT) インフラ

3.観光インフラ

6.価格競争力

※発展させるためには、自然、文化、アドベンチャーの資源を補完する要素への投資が必要

アドベンチャーツーリズムの管理について

✓ 規制、認証、ガイドの水準

規制	認証	ガイドの水準
<ul style="list-style-type: none"> ・基準とは対照的に、政府によって制定・施行（費用・時間がかかる） ・安全性の確保や事前の保護等、業界関係者が行うべき活動を規定 	<p>政府や商業団体が付与。特定の基準や規制に準拠していることを証明。アドベンチャーツーリズムではガイドの技術認定を目的とした認証あり。</p> <p>（例）ラフティング、登山、ロッククライミング、キャニオニング</p>	<p>様々な指導基準等が存在する一方、ほとんどの地域や国、市場における育成プログラムは、技術的な安全性と環境基準を重視</p> <p>唯一国際的に認められた基準はISOアドベンチャーツーリズム安全基準 (ISO/TC228 WG7)</p>

✓ リスク管理

… 観光業界のリスク管理モデルの多くは、アドベンチャーツーリズムの安全性と物理的リスクに特化しているが、「商業リスク」「法的リスク」「医療リスク」「運営リスク」「身体的リスク」「社会的リスク」等のリスクを配慮する必要あり。

カテゴリズ(6分野)による評価

※アクティビティーごとではなく、より全体的・流動的な評価の手法

<p>商業リスク</p> <p>消費者嗜好の変化による旅行市場の低迷や減少、テロ、自然災害、為替変動など</p>	<p>法的リスク</p> <p>合法的に運営するために必要な許可やライセンス</p>	<p>医療リスク</p> <p>健康状態を考慮した事前のスクリーニング</p>
<p>運営リスク</p> <p>詳細な旅程表や道具、宿泊施設、車両のメンテナンスなど</p>	<p>身体的リスク</p> <p>怪我や病気の予防など</p>	<p>社会的リスク</p> <p>顧客同士、顧客とガイドの間、顧客グループと地域の人々との交流の管理</p>



【リスク管理におけるベストプラクティス】

国際標準化機構 (ISO) が2014年にアドベンチャーツーリズムに関する国際規格を採択

アドベンチャーツーリズムの展望について

✓ 課題

環境容量	非居住者による消費や交通、廃棄物の増加など
環境の脆弱性	自然環境や社会・歴史的建造物のある場所で行われやすいため、壊れやすく過密状態からの保護が必要
気候変動	世界のCO2排出量の5%を観光業が排出。気候変動により観光地の魅力やアクセス性が低下
戦略	組織戦略による気候変動の影響への対処、リーダーやスタッフの教育計画の推進
オペレーション	組織における共通テーマの理解能力、気候の影響に応じた交通手段や宿泊施設などの変更に係る柔軟性の確保
マーケティング	気候変動に応じたマーケティング戦略の変更、気候・環境に係る旅行者への教育の実施



✓ 将来への提言と機会

環境投資とエコツーリズム	<ul style="list-style-type: none">市場をベースとした環境保護へのアプローチを活用 →観光ビジネスや観光地が抱えるリスクを最小化地域に根差した環境の管理・運用の促進
高度化	<ul style="list-style-type: none">持続可能性や環境保全等の基準作成、実施、監視 (自己管理能力)

